

女性の生活習慣と健康に関する疫学研究 (JNHS) フォローアップ調査の進捗状況

群馬大学医学部保健学科医療基礎学

林 邦彦

【略歴】

1980年	東京大学医学部保健学科卒業	1996年	群馬大学医学部保健学科医療基礎学助教授
1980年	山之内製薬株式会社臨床統計部	1999年	日本ナースヘルス群馬パイロット研究 (GNHS) 開始
1982年	東京大学医学系研究科研究生 (疫学)	2001年	群馬大学医学部保健学科医療基礎学教授
1990年	保健学博士 (東京大学, I-10212号)	2001年	日本ナースヘルス研究 (JNHS) 全国調査開始
1990年	ハーバード大学公衆衛生学大学院客員研究員		

女性の生活習慣と健康に関する疫学研究 (日本ナースヘルス研究, JNHS) は, 2001年から開始した前向き女性コホート研究である。対象者募集では, 当学会をはじめ, 日本看護協会や都道府県看護協会などの協力を得た。ベースライン調査には, 全国 49,927 名の看護職の資格をもつ女性が回答した。回収された調査票は, JNHS データ・センターにて統計解析のためのデータ・チェックや修正がなされ, 幾つかの課題について結果報告を行ってきた。

ベースライン調査回答者のうち約 1/3 が長期フォローアップに同意し, 2年に1度の郵送法による継続調査に約 16,000 人が参加している。47 都道府県すべてに参加者がいる, 全国規模の前向きコホート研究である。継続調査参加者数の多い順に, 大阪府, 群馬県, 愛知県, 福岡県, 神奈川県, また女性人口あたりの参加者数が多い県は, 福井県, 群馬県, 徳島県, 香川県, 滋賀県である。ベースライン調査での登録時期が異なるため, フォローアップ期間は対象者によって異なるが, 現在の平均フォローアップ年数は 6.9 年である。前向きコホート研究では, 如何に高い調査継続率を維持できるかが重要となる。米国 NHS では, 毎回の調査回答率が 80% 以上, またフォローアップ期間が 30 年以上となっても調査継続率は 90% を超えている。JNHS でも, 毎年, 数千人に及ぶ未回答者への催促のほか, 数百人について転居先住所の確認作業を行っている。現在までに, 追跡不能となった例は 327 例 (2.0%) で, 死亡は 31 例 (0.2%) であった。

フォローアップ調査票では, 各種疾患の新規発生が重要なアウトカム項目である。これら自己申告による疾病情報を確認するバリデーション調査を, JNHS 疾病評価委員会 (磯博康委員長) が中心になって行っている。現在までに, 心血管系疾患 (心筋梗塞, 狭心症, 脳梗塞, TIA, 脳出血, くも膜下出血, 下肢動脈血栓) 168 例では 64.9% から, 悪性腫瘍 (乳癌, 卵巣癌, 子宮頸癌, 子宮体癌, 肺癌, 胃癌, 大腸癌) 241 例では 85.1% から, 詳細確認調査への回答を得た。また, 子宮内膜症と子宮筋腫では, 婦人科疾患担当委員 (安井敏之委員, 岡野浩哉委員) が, 新規発生例のみならず, ベースライン調査時の既往報告例も含めたバリデーション調査を実施中である。現在まで, 子宮内膜症 923 例で 76.2%, 子宮筋腫 1,819 例で 75.6% から詳細確認調査への回答を得た。このバリデーション調査における未回答者への催促も, 引き続き実施している。